

ひと

千葉空襲と戦争の記憶を
若い世代に語り継ぐ



白井 進 さん(88)

「千葉市空襲と戦争を語る会」を仲間たちと17年前に立ち上げ、「平和のため戦争展」や「戦争を繰り返さないための集い」にくりくんできました。8月に

千葉市で開く空襲・戦災を記録する会全国連絡会議千葉大会を成功させようと準備に奔走する毎日です。

終戦を迎えたのは大阪陸軍幼年学校の年生の15歳の

時。終戦直後、汽車で千葉駅まで帰って来ると、駅前から県庁までの約2キロ、市街地全体が消滅して、家が1軒もありませんでした。「ほろぜん」としました。

あの光景を忘れることはありません。日本が再び戦争する国にならないよう、未来を担う世代に戦争の記憶を伝えなければ」と、語り

部の活動を続けています。

幼年学校で身につけた英語、仏語の語学力を賣われ、大手銀行で労働組合役員を務める傍ら国際業務に従事。出張先の国々で、現地の人たちと歴史や文化を交流したことが、日本を見つめ直す機会になりました。

銀行を退職後、大学で国際経済学の講師を務め、各国の政治、経済、歴史、文化を講義しました。毎回授業の終わりに『さげ わたつみのこえ』を読みあげ、学徒出陣で戦死した学生思いを伝えてきました。

気さくで話し好き。趣味が多く、ほけ防止のため竹歳で始めた大正琴は、仲間たちと四重奏を楽しむほどの腕前に。月に一度、街並みを一望できるレストランで妻と食事を楽しまます。昼食時にたしなむ一本のビールが活力の源です。

文・写真 秋山 強志